

ほつと人権

—第10号—

平成18年12月2日・3日

学校支援部 人権教育担当

“いで湯と、歴史と文学の町”松山市で開催された、第58回全国人権・同和教育研究大会に行ってきました！

1 研修会

【日 程】平成18年12月2日（土）～3日（日）

【会 場】愛媛県武道館他

【主 催】全国同和教育研究協議会



2 全体会

- ・全国同和教育研究協議会会長挨拶
- ・第58回全国人権・同和教育研究大会地元実行委員会実行委員長挨拶
- ・来賓挨拶（愛媛県知事・県議会議員・松山市長・部落解放同盟全国委員会・日本教職員組合・自由同和会・日本PTA連合会）
- ・基調提案
- ・特別報告 愛媛県人教・宇和島市人権教育協議会



全国各地から、多くの参加者が松山の地に集いました。



全体会では、「みどりの山 あおい海 愛媛から発する人権文化 ～人類の未来は人権にかかるとるぞなもし～」という大会スローガンのもと、本大会が全国的な広がりや深まり、確かな力を創り出せることを願う基調提案が出されました。

来賓の挨拶には、教育界における喫緊の解決すべき問題である「いじめ」問題や、国会で議論されていた「教育基本法改正」についての意見等が述べられました。

初日は朝のうちは晴れ間ものぞいていたのですが、途中から横なぐりの雨という荒天となり、12月らしい気温で寒さを感じる1日でした。

しかし、会場はたくさんの人の熱気ムンムン。報告者の実践から学ぼうとする参加者の熱き思いが伝わってきました。

また、松山市内の高校生の書いた書や、高校の先生による「竹田の子守歌」の熱唱など、これまでの大会とはひと味違った趣向がありました。

3 分科会

分科会は、特別分科会を除いて全部で9分科会が設定され、「学校教育部会」と「社会教育部会」とに大きく分けられていました。「学校教育部会」は、「人権確立をめざす教育の創造」「自主活動」「進路・学力保障」の3部会に分けられ、「社会教育部会」は、「人権確立をめざす地域の教育力」「子ども会活動」「識字運動」「生活課題と学習活動」「生活課題と啓発活動」「人権確立をめざす文化創造」の6部会に分けられていました。

分科会では、学校や地域のサークルやPTA組織、教育委員会やNPO等が、各学校における実践やそれぞれの地域における取組について報告し、地域の現状などについて活発な意見交換がなされました。

参加した分科会では、以下のような報告がありました。

◆参加した分科会での報告

○「みんながきてくれてうれしかったです」～3年生全員で「学園」に行こう！～

滋賀県人教・守山市立河西小学校・児童養護施設守山学園

○「東の風をふかそう」～総合的な学習の時間の取組を通して～

愛媛県人教・四国中央市立三島東中学校

会場：愛媛県立松山南高校

○「自主教材づくり 日韓共通歴史教材『朝鮮通信使』」～豊臣秀吉の朝鮮侵略から友好へ～

広島県同教・広島市立伴東小学校

○「社会苦手やったけど、歴史はおもしろいね」～「福岡発 今Dokiの部落史学習」を実践して

福岡県同教・福岡市立西陵小学校・福岡市立賀茂小学校

○「本当の仲間とは」～人権劇（絆）への取組～

徳島県人教・県立城ノ内中学校

会場：松山市立雄郡小学校

滋賀県からは、児童養護施設から通う子どものことを、学校の友だちにもっと知ってもらいたいという教職員の思いから、「河西ウォッチング」の取組につながったこと、取組を通して子どもたちに相互理解の様相が見え始めたこと等が報告された。



愛媛県からは、総合的な学習の時間における人権にかかわる様々な講座における取組の中で、障害のある子とのかかわりや、母親の思いに触れる中で周りの生徒たちの変容が見られたことや、人権問題を自分とのかかわりで見ようになり、友だちに対するまなざしも肯定的なものに変容していることが報告された。



広島県からは、日韓の教職員の交流を通して、歴史教育における共通の歴史教材づくりについての報告があった。

また、歴史教材づくりの前に、日韓両国で行われたアンケートから、日韓の生徒や日本の教職員を対象としたアンケートの分析結果などが報告された。

作成された歴史教材では、朝鮮通信使による交流や、雨森芳洲などを扱い、日韓が未来に向かってより良い関係を築くことができるようにとの願いが込められていることが報告された。

福岡県からは、社会科における学習課題の解消をめざし、「差別と貧困」の部落史学習から「生産と労働」の部落史学習への見直し、子どものつぶやきをひろい、興味関心を持たせる授業展開の中で、検証軸の子どもも活躍でき、効力感を獲得できる授業、歴史がおもしろいと思えるような社会科授業をめざしての取組が報告された。

徳島県からは、仲間づくりの促進と、自分たちの生活を見直すための人権劇を通して、不登校気味の生徒の成長や、劇に参加した他の生徒の成長が紹介された。劇のあと開かれた全校生徒による人権集会では、劇に参加した生徒、見ていた生徒から出された様々な気付きや感想が紹介され、各クラスにおける「仲間」に対する意識の深まりについて報告された。

今回参加した分科会では、学校は、教職員はどうあるべきなのか？学校の目的は何なのかを考えさせられるような提起がフロアからありました。この提起を聴きながら、学校のあり方、管理職の姿勢、子どもと向き合う教職員の人権感覚、人権意識の大切さを改めて感じるとともに、それを自分に問い、研修では教職員の皆さんに問いかけていこうと思っています。